

1) けがの対応

1) おもな傷の手当て

共通事項	<p>血液、砂、泥が付いているときは、水道水で洗い流す。 出血があれば、洗った後清潔なガーゼを当てて5分以上圧迫する。</p> <ul style="list-style-type: none">・当てたガーゼはめくらず、血がにじんでいたら、新しいものを上から重ねる。・傷口はできるだけ高い位置に置き、安静にする。・傷の範囲が広いときは、不織布等をあて粘着テープで止める。
刺し傷	<p>*くぎ、画びょう</p> <ul style="list-style-type: none">・抜き取り、傷の血を絞り出す。・くぎは、深く入りやすく、さびたものは、化膿や破傷風の心配があるので病院へ行く。 <p>*とげ</p> <ul style="list-style-type: none">・消毒した針、とげ抜きピンセット、毛抜きで抜き、水道水で洗う。・取りにくいときは、5円玉の丸い穴を当て押し出すようにして取る。
挟んだ傷	<ul style="list-style-type: none">・内出血をしている時や腫れが見られたときは冷やして様子を見る。 <p>*こんな時は病院へ！</p> <ul style="list-style-type: none">・痛みや腫れがひどくなってきたとき・爪が半分以上はがれたとき・血まめができていて、冷やしても痛みが強いとき

2) 鼻血

鼻血	<ul style="list-style-type: none">・園児をイスに座らせ、下を向けさせ、鼻をしっかりとつまみ、口で息をさせ、安静にする。・鼻の根元、目頭の下部分を押さえる。・それでも血がとまらない時は、脱脂綿を丸めて、軽く詰める。・額から鼻にかけて冷水で絞ったタオルでしばらく冷やしてあげるのも効果的
----	---

3) 虫にさされたら、動物にかまれたら

<p>蜂に さされた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・針や毒は、絞り出す。 *アナフラキーショックに注意 ・流水で洗い流す。 ・冷たいタオルで冷やす。 ・刺されたあと、15分位は安静にして、様子を見る。 *刺されたあと10分位様子をみて、顔色がわるい、嘔吐などのショック症状がある場合は、すぐ救急車を呼ぶ。
<p>動物に かまれた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動物に噛まれたときは、流水でよく洗い、清潔なガーゼを当て病院へ行く。

4) 異物が入った

<p>目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こすると角膜を傷つけるのでこすらせない。 ・洗眼器に微温湯（水だと刺激が強い）を入れ、顔を横に向けて洗い流す。 ・清潔な手で、下まぶたを引っ張って、異物があれば濡らした綿棒やガーゼの端で軽く拭き取る。 ・痛みが続く、涙が止まらないなどの症状が続くときは、清潔なガーゼで目を覆い、眼科に行く。
<p>耳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・虫が入った→ベビーオイルやサラダ油をたらし、虫を殺し、耳鼻科へ行く。 ・水が入った→水の入った耳を下にしてタオルを当て、反対側の頭を軽く叩く。入り口付近なら、綿棒で拭う。 ・玩具や固いものが入った→入った方の耳を下にし、耳をひっぱりながら反対側の頭を軽く叩く。出てこない時は、耳鼻科へ行く。
<p>鼻</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鼻の奥に入った→すぐに耳鼻科へ行く。 ・見える場所にある→入っていない鼻を押え、口をとじさせてフン!と強く息を出させる。 ・鼻をかめない子は、大人が吸い取る。
<p>のど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何を詰らせたか確認する。 ・目を白黒させたり、呼吸困難で顔や唇が青くなってきたら、とにかく異物を吐かせる。 ・軟らかい物の場合→指を入れて、異物を出す。 ・固い物の場合→（幼児、成人） <ul style="list-style-type: none"> ・詰まらせた子を座位にする。 ・腕を後ろから抱えるように回す。 ・片手で、握りこぶしを作り、児童のみぞおちのやや下方に当てる。 ・その上をもう一方の手で握り、すばやく内上方に向かって圧迫するように押し上げる。

5) 口の中のけが

口の中が切れた	<ul style="list-style-type: none"> ・傷口が汚れているときは、水道水で洗い流す。 ・出血している場所をみつけ、清潔なガーゼで押さえる（圧迫止血）。 ・血液を飲まないように気をつける。 ・出血がなかなか止まらないときは、圧迫しながら病院に行く。
歯が折れた、抜けた	<ul style="list-style-type: none"> ・出血しているときは、血液を飲み込まないように気をつける。 ・対応が早いと折れた歯や抜けた歯がくっつくこともあるので、未開封の牛乳につけて病院（歯科）に行く。 ・歯は絶対にこすったり水道水につけたりしない。 ・歯の根っこ（歯根膜）は触らない。 ・歯ぐきの色が変わったり、歯ぐきを触ると痛がったりする時は病院（歯科）に行く。

6) 打撲

頭を打った	<ul style="list-style-type: none"> ・意識状態を見る。異常があればすぐに救急車を呼ぶ。 ・腫れがあるときは、氷を入れたビニール袋をのせて冷やす。 ・出血があれば、清潔なガーゼでおさえる。 ・少しでも気になるようであれば、病院で手当てを受ける。
目を打った	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐ横に寝かせ、冷やしタオルで冷やし、安静にして様子を見る。 ・目の周りが腫れている、目の中が出血している、痛みがいつまでたっても治まらないなどのときは、病院に行く。 <p>※眼球は氷で冷やさない。（充血するので）</p>

7) 骨折（骨が折れたもの、ひびが入ったもの）

骨折	<ul style="list-style-type: none"> ・骨折部位を安静にする。 ・副子を当て動かないように固定し、すぐ病院へ行く。（固定できる物の例_副木、段ボールなど）
脱臼	<ul style="list-style-type: none"> ・手を引っ張った時、子供が転んだ時など突然泣き出し、腕をダランと下げたまま動かそうとしない場合は、肘内症の疑いがある。 ・包帯や三角巾などで動かさない様にして、病院へ行く。
捻挫	<ul style="list-style-type: none"> ・冷やして様子を見る。 <p>→痛がったり、腫れてきたら、固定して病院へ行く。</p>

8) やけど

共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ・患部をとにかく冷やすことが大切。 ・衣服は無理に脱がさない。 ・水疱を破らない。 ・軟膏や消毒スプレーなど使わない。 ・こんな時は、病院へ冷やしなから行く。 →広い範囲で、火傷した。 顔や頭、指の火傷。 皮膚がむけてしまった。 水疱ができてしまった。
手足	<ul style="list-style-type: none"> ・水道水を流しっぱなしにして、痛みがとれるまで、最低20分は、冷やす。
目、耳、鼻の周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・濡れたタオルで包んだ氷（ビニール袋に入れる）や、氷枕で冷やす。
頭、顔	<ul style="list-style-type: none"> ・手で水をかけるか、シャワーを弱めにかける。
全身	<ul style="list-style-type: none"> ・風呂の水にそのままつける。 ・十分に冷やしてから、衣服をはさみで切り開く。（無理に脱がさない）

9) 熱中症（日射病、熱射病）

頭が痛い、顔が赤い、体が熱い、吐く	<ul style="list-style-type: none"> ・涼しい所へ移して、衣服をゆるめる。薄めたイオン飲料水を飲ませる。頭や体は、冷たいタオルや、氷枕で冷やす。 ※ こんな時は、病院へ！ 様子をみても、回復しない時 顔色が悪く、ぐったりしている時 意識がない時 痙攣を起している時
(予防)	<ul style="list-style-type: none"> ・帽子をかぶる。 ・水分補給を心がける。 ・長時間炎天下で、遊ばない。 ・日差しの強い時間の外出はなるべく避ける。

10) 水におぼれた

意識がある場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大声で泣き出せば、まず心配ない。 ・ 多量に水を飲んでいる場合は、吐かせる。 ・ ぬれた洋服を脱がせ、毛布などで保温する。 ・ 落ち着いたら、温かい飲み物を飲ませる。 ・ 発熱や咳が、次第にひどくなっていく場合は病院へ行く。
意識不明や心肺停止のある場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りの人に協力を求め、救急車を呼ぶ。 ・ 救急車が到着するまで、心肺蘇生を行う。 ・ 意識が戻り、吐き気が出てきたら、吐かせる。

<心肺蘇生法> 地元消防本部で訓練実施依頼をしてください。

2. 病気の対応

症状別（熱、咳、腹痛、嘔吐、下痢、痙攣）の手当、ポイント

熱が出た時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体温計で正しく熱を測る。高い時は、保護者に連絡する。 ・ 他の症状の有無を観察する。 ・ 嫌がらなければ、氷枕や熱救急シートで冷やす。 ・ 寒がっている場合は、掛け物をたして温める。 ・ 汗をかいたらよく拭き、着替えさせる。 ・ 水分は少量ずつ何回かに分けて与える（麦茶、湯冷ましなど）。 ・ 室温、湿度に気をつける。
咳が出た時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 咳の原因は何かを見極める。 ・ 咳以外に気になる症状があるかを確認する。 ・ 湿度に気をつける。 ・ 水分は少量ずつ何回かに分けて与える。 ・ 背中をさすったり、上半身を高くして寝かせる。
嘔吐した時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の症状の有無を観察する。 ・ 吐いたものが気管に入らないように、体を横向きに寝かせる。 ・ 吐いた後、うがいのできる子はうがいさせる。 ・ 水分を少量ずつ、様子をみながら何回かに分けて与える。
下痢をした時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 便の状態を良く見る（色、臭い、回数、硬さ、量）。 ・ 他の症状の有無を観察する。 ・ 水分は何回かに分けて少量ずつ与える（麦茶、湯ざまし）。 ・ お尻をお湯できれいに洗い流す。 ・ お尻が赤くただれている時は、病院受診をすすめる。 ・ 一時的にペークミン、馬油を塗ってもよい。 ・ 食事は消化の良いもの、温かいものを与える。

<p>腹痛の時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ただの腹痛とは限らないので、原因は何かを考える。 ・楽な方向に横向きか、膝を曲げ安静に寝かせる。 ・食べ物や飲み物は与えないで様子を見る。 ・顔色は蒼白になり、間隔をおいて激しく痛がったり、繰り返して嘔吐するときは、《腸重積》の可能性があるので、至急、病院へ行く。
<p>けいれん、ひきつけをおこした時</p>	<p>以下の事を観察しながら手当てをすること!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何分位か。 ・どんな痙攣なのかを見る。 <p>(例) 手や足をガタガタふるわせたか 手足を突っ張るようなものか 目は白目をむいたか 左右対称であるか</p> <p>[手当て、ポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服をゆるめる。 ・顔を横にむける。 ・名前を呼んだり、体をゆすったりしない。 ・口の中には、何も入れない。 ・おさまった後の反応を見る (顔色、泣いたか、眠ったか、名前を呼んで反応するかなど)。 ・体温を測る。 ・安静にする。 ・熱が高い場合は、これ以上熱が上がらないように、冷たいタオルで冷やす。